

学年のねらいと指導内容

ブロック目標

学年のねらい

指導内容 1

指導内容 2

低
正しい
思いを
素直に
表す

1, 2 年
○事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができる。
○事柄の順序を考えながら話したり書いたりすることができる。

話すこと・聞くこと
○知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。
○大事なことを落とさないようにしながら興味をもつて聞くこと。

書くこと
○自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考えること。
○事柄の順序を考えながら語と語や、文と文との続き方に注意して書くこと。
○相手や目的を考えながら書くこと。

読むこと
○順序事柄を考え、場面の様子などについて想像を広げながら読むこと。
○語や文としてまとまりや内容、リズムなどについて考えながら声に出して読むこと。
○読書に親しむ。

言語事項
○姿勢、口形などに注意してはつきりした発音で話すこと。
○文の中における主語と述語との関係に注意すること。

中
自分の考えを確実に伝え合う

3, 4 年
○目的に応じて、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読むことができる。
○相手や目的に応じて筋道を立てて話したり、段落相互の関係をなどを工夫して文章を書いたりすることができる。

○伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話すこと。
○話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。

○自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考え、書こうとするこの中心を明確にし、段落と段落の続き方に注意して書くこと。
○相手や目的に応じて、適切に書くこと。

○目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。
○場面の移り変わりや情景を叙述を基に想像しながら読むこと。
○読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
○書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。
○いろいろな読み物に興味を持ち、読むこと。

○その場の状況や目的に応じて適切な音量や速さで話すこと。
○修飾と被修飾との関係など文の構成について初歩的な理解をもつこと。
○文章全体における段落の役割を理解すること。
○相手やその場に応じた丁寧な言葉で話すこと。

高
友達と、自分の読み比べながら、考えを適切に伝え合う

5, 6 年
○目的に応じて内容や要旨を把握しながら読むことができ、目的や意図に応じた筋道を立てて文章を書いたりすることができる。

○考えたことや自分の意図が分かるように、話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
○話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くこと。

○自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること。
○事象や感想、意見などを区別し、目的や意図に応じて簡単に書いたりすること。

○目的や意図などに応じて文章や内容を的確におさえる必要をもち、要旨を明らかにすること。
○登場人物の心情、場面についての描写など優れた叙述を味わいながら読むこと。
○書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にし、読みながら読むこと。
○読書に親しみ、考えを広げたり深めたりすること。

○語感、言葉の使い方に関心をもち、言葉に対する感覚を磨くこと。
○文や文章には、いろいろな構成があることを理解すること。
○語句の構成、変化などについて、その理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

サブテーマ

言葉を大切にして読み、伝え合う力を育てるために

研究主題

一人一人が生き生きととりくむ国語学習

[表2] 音読活動ステップ

[☆どの子も読める ☆楽しく読める ☆まらず読むことから]

	低学年 (1, 2 年)	中学年 (3, 4 年)	高学年 (5, 6 年)
	はつきり、すらすらと	正しく、工夫して	味わって
技 術	・口形に気をつけて ・正しい発音ではつきりと ・「、」や「。」に気をつけて ・「」の言葉に気をつけて ・拾い読みでなく語や文として	・その場に合った大きさの声で ・その場に合った速さで ・強弱を考えて ・会話文や地の文の読み分けを工夫して	・聞きやすい音量で ・間のとり方を工夫して ・気持ちや情景を考えて
読み深めるために	・読むことで内容を理解する。 ・場面の様子などをからだ全体で読む。	・ことばに着目して読むことで、内容理解を深めていく。 ・内容の中心や場面の様子などを意識して読む。	・適切に読むことで、内容理解に生かす。 ・内容の中心や人物の心情などを味わって読む。
	基本的な考え		
	実践に生かす	・ペア音読 ・グループ音読 ・音読メモ ・本読みカードを利用して	
	・抜き読み音読 ・つれ読み	・役割読み ・声のもののさし	

重点的に扱う
必要に応じて扱う

「ききたい」という思いを
書く・書く
「ききたい」という思いを
書く・書く

— —